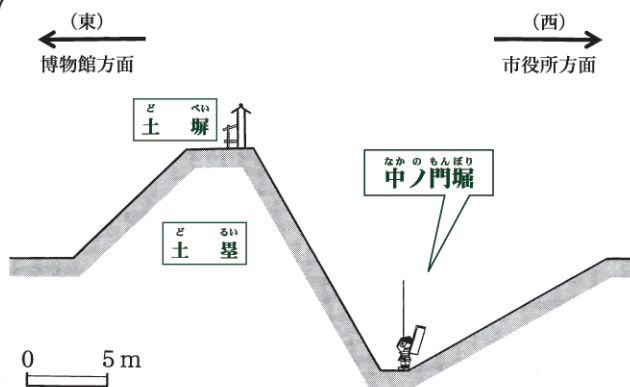


●中之御門東西棟図

この絵図は、松平大和守家の家臣であった群馬県前橋市の多加谷家に伝わったものです。これによれば、中ノ門は二階建ての櫓門で、屋根は入母屋、本瓦葺き、一階部分ははりゆき梁行十五尺二寸(約4m60cm)、けたゆき9m18cm)ほどの規模でした。

中ノ門堀のひみつ②



発掘調査で、中ノ門堀の最初の大きさは深さ7m、幅18m、西側(西大手門側)の勾配は30°東側(本丸御殿側)は60°だったことがわかりました。つまり、城の内側では堀が壁のように切り立って敵の行く手を阻んでいたのです。

利用のご案内

- 所在地
川越市郭町1丁目8番6
- 開園時間
午前9時から午後5時まで
- 休園日
年末年始(12月29日から1月3日まで)
都合により休園日を変更することがあります。

交通のご案内

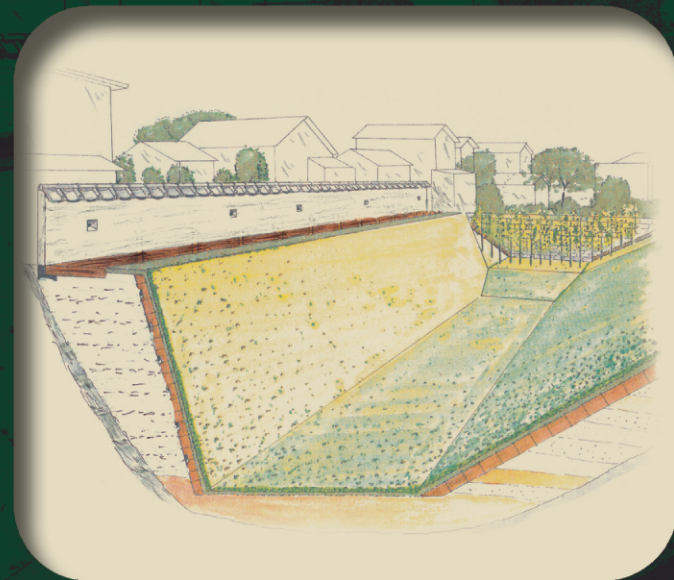
- 東武東上線・地下鉄有楽町線またはJR川越線川越駅から東武バス「札の辻」下車徒歩5分
- 西武新宿線本川越駅から東武バス「札の辻」下車徒歩5分



お問い合わせ

- 川越市教育委員会文化財保護課
〒350-8601 埼玉県川越市元町1-3-1
TEL 049-224-6097 (月～金 8:30～17:00)
Eメール bunkazai@city.kawagoe.saitama.jp

川越城中ノ門堀跡



川越市教育委員会

川越城の歴史と中ノ門堀

川越城は、長禄元年(1457)に扇谷上杉持朝の家臣である太田道真・道灌父子によって築城されました。当時、持朝は古河公方足利成氏と北武蔵の覇権を巡る攻防の渦中にあり、川越城の築城はこれに備えたものです。天文6年(1537)、小田原を本拠とする後北条氏は川越城を攻め落とし、同15年の河越夜戦によって北武蔵への支配を磐石なものとし、しかし、天正18年(1590)の豊臣秀吉の関東攻略に際しては前田利家に攻められて落城します。

江戸時代になると、川越城は江戸の北の守りとして重視され、親藩・譜代の大名が藩主に任じられました。寛永16年(1639)に藩主となった松平信綱は城の大規模な改修を行い、川越城は近世城郭としての体裁を整えるにいたりました。

中ノ門堀はこの松平信綱による城の大改修の折に造られたものと考えられます。まだ天下が治まって間もないこの時代、戦いを想定して作られたのが中ノ門堀だったのです。

中ノ門堀跡の整備

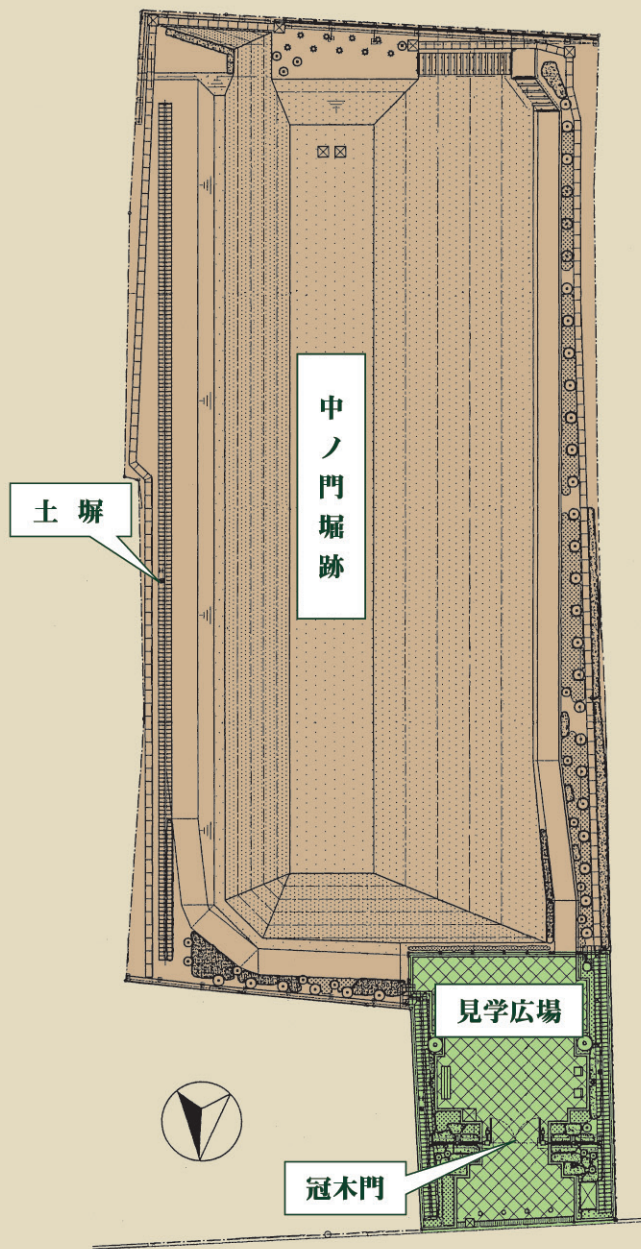
明治時代以降、川越城の多くの施設・建物が取り壊されるなか、中ノ門堀跡は旧城内に残る唯一の堀跡となりました。

この川越城の名残をとどめる中ノ門堀跡を保存していこうという声が市民の間から起こり、川越市では平成20年度から21年度にかけて整備工事を行いました。

整備にあたっては、①貴重な文化財である中ノ門堀の遺構を将来にわたって保存すること②市民の方々の憩いの場となること③蔵造りの町並みと本丸御殿・博物館・美術館を結ぶ川越観光の中継点となることを主な目的としました。

施設は大きく中ノ門堀跡本体と見学広場の2つに分かれます。

堀跡本体は遺構保護のため現況面に盛土しつつ、発掘調査で確認された構築当初の勾配を復元しました。また、見学広場には説明板・ベンチを設け、入口には城を連想させる和風の冠木門を設置しました。



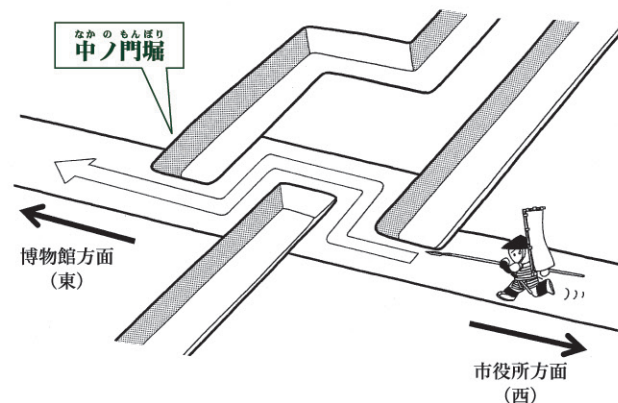
川越城中ノ門堀跡 平面図



●川越城図 (川越市立中央図書館 蔵)

この絵図は、慶応3年(1867)頃の川越城のようすを描いたものです。中ノ門堀の南側は土を示す黄土色、北側は水を示す藍色に塗られています。発掘調査の成果などからも、中ノ門堀は堀底から水が染み出す程度の空堀であったようです。

中ノ門堀のひみつ①



もし、敵が西大手門(市役所)側から攻め込んだ場合、中ノ門堀などの堀に阻まれて、本丸(博物館)方面へ直進することができません。進撃の歩みがゆるんだところに、城兵たちが弓矢を射かけ鉄砲を撃ちかけるしくみでした。